

「人材育成の観点から、未来を拓く学校の使命と経営を探る」

東京都立砂川高等学校長 野中 繁

1 本校の概要

本校は、東京多摩地区で唯一の昼夜間定時制課程と通信制課程の併置校として改編から10年を迎える普通科高等学校である。「自立」「敬愛」「責任」の教育目標のもと、「進学・自立志向」と「一人一人が輝く砂高」を基本理念として、多様な生徒の多様なニーズに応える教育を展開している。

2 特色ある教育活動への取組

(1) 本校の課題：主体的な学習者を育てるキャリア教育の導入

学校経営計画に、自己肯定感が低く学びから逃避しがちな生徒に、意識改革をもたらす主体的な学習者への変容を目指すため、職場見学やインターンシップも含めた具体的な体験・行動中心のキャリアプログラムを作成・実施することを設定し取り組んできた。特に、平成25年度からは、東京都教育委員会が実施する『企業・NPO等と連携した「社会的・職業的自立」支援事業』の実施校に応募し、様々なプログラムを取り入れ実践してきたので、その具体的な項目や成果を報告する。

(2) 『企業・NPO等と連携した「社会的・職業的自立」支援事業』とは

東京都教育庁地域教育支援部生涯学習課が実施する事業で、企業や大学、若者支援に関する専門的知識や経験を有するNPO等と連携し、高校生が社会や職業について実感をもって理解しながら、社会人・職業人として生活していくために必要な能力等を身に付けることができる教育プログラムを多数設定し、都立高校は、「総合的な学習の時間」等で、自校の教育計画に基づき、必要な教育プログラムを申請し実施するもの。

3 本校のキャリア教育（砂高キャリアガイダンス3年間の実施計画より抜粋） *が支援事業

	1年次	2年次	3年次
4月	HR校外研修 高校生活の目標・適性検査 進路ガイダンス	2年生の目標 S大学との連携教育開始 T大学との連携教育開始	進路希望調査 進路適性検査、 S大学との連携教育開始 T大学との連携教育開始
5月	*未来を見つけよう講演会	進路ガイダンス 個性と適性	*学校別・希望別進路相談会
6月	*金銭教育ワークショップ *職業講話	*上級学校等体験講座 *環境問題と私たち	*小論文演習・模試 面接講座 大学・短大・就職ガイダンス
7月	キャリアガイダンス1学期まとめ *職業別進路ガイダンス	*マナー講座	センター試験説明会① *就職ガイダンス 面接体験
8月	夏期補習 オープンキャンパス T女子大学との連携教育	夏期補習 オープンキャンパス T女子大学との連携教育	夏期補習 オープンキャンパス 職場見学 インターンシップ
9月	*進路調査 文理選択講演会 履修ガイダンス 履修シュミレーション	履修ガイダンス *就職意識啓発講座 *マナー講座	センター試験説明会② 企業応募開始
10月	教科個別相談会 履修科目研究	教科個別相談会	推薦面接・小論文指導
11月	履修科目研究 履修登録	履修科目研究 履修登録	推薦入試開始
12月	*マナー講座 *分野別説明会	*視覚障がい者の生活 *心肺蘇生法	*ライフプランニング講座
1月	*小論文ガイダンス	小論文ガイダンス	*適応指導講座
2月	小論文模試	小論文模試	
3月	*社会人との交流会 *ライフプランニングワークショップ 進路ガイダンス 1年間の振り返り	*個人面接体験・演習 進路ガイダンス 2年間の振り返り	(平成26年度の実施計画です。)

4 成果と課題

不登校、中途退学、学力不振、問題行動等、多くの課題を抱えた生徒に共通するのは、自己肯定感・自己有用感の低さである。規律だけを押し付けても、生活習慣の改善を迫っても、自らの未来を正面から捉え、それに取り組もうとする意識が芽生えなければ根本的な解決には至らない。そこで、体験活動や行動を伴うキャリアプログラムに進路指導部を中心に取り組んできた。その成果は生徒の姿に明確に表れている。課題は、与えすぎはかえって生徒の自主性を損なうことや実施する時期の問題である。全ての生徒に効果がみられるわけではなく、モチベーションの低い(時期の)生徒には効果は薄い。実施内容、時期、頻度、事前指導・事後指導の在り方について、今後更に評価と改善が必要である。

人材育成の観点から、未来を拓く学校の使命と経営を探る

東京都立松が谷高等学校長 平野 篤士

1 本校の現状と教育課題

本校は、東京都郊外の多摩西部に位置する中堅の普通高校で、普通科に外国語コースを有することが教育上の特色であり、広い校地と恵まれた運動施設を生かし、運動系の部活動が盛んな学校であった。しかし外国語コースの難易度は、他校とは逆に普通科をやや下回り、部活動が比較的盛んという以外に、これといった特色を打ち出せていないというのが現状であった。こうした状況を打破し、早期に職員を掌握して学校の特色の芽出しを行い、その特色を強化する方向性を明確に打ち出すとともに、組織マネジメントと人材育成を強化しながら着実に具現化していくことをミッションとして学校改革に取り組むこととした。

2 平成25年度の取り組み

(1) 特色の芽出し

本校の現状を見れば、本来、強みであるはずの外国語コースが逆に弱みになってしまっていることが、学校全体に漂う停滞ムードの主因であり、外国語コースを立て直すとともに、外国語コース設置校のメリットを生かし、英語教育を学校全体の特色にすることが急務であることは明らかであった。

(2) 組織マネジメントの強化と人材育成

まず、短期間で組織を強化するために、教員全体が、その脅威の前に否応なしに団結せざるを得なくなる外部要因を提示し、それを仮想敵国のように見立てて危機感を煽り、教職員一人一人に対応策を自分の問題として考えさせる人材育成戦略を考えた。具体的には前任者から引き継いでいた臨時増学級を外部要因の脅威として提示し、近隣の学校や同レベルの都立中堅校の入選倍率などのデータを詳細に提示して、このまま無策で次年度の入選に向かえば、確実に二次募集は避けられないという状況分析を、最初の一か月で教職員に浸透させた。

続いて、中期的な組織強化のため、26年度に向けたミドルリーダーの育成を行った。具体的には前述の危機感に最も強く反応した分掌や学年の主任教諭2名を、次年度以降の組織の柱とするために、それぞれ管候補及び4級職主幹として育成した。そして彼らを含めた既存の主幹教諭に、それらの提案を着実に実施させるようにして、組織マネジメントを強化していった。

(3) 教科マネジメントの強化と人材育成

次に、学校特色化の柱である英語教育について、外国語コースのこれまでの取り組みを見てみると、工夫を凝らした取り組みを行っている反面、それが TOEICBridge のスコア向上や進学実績に結び付かない現状があった。このことは生徒の興味が英会話に偏重しており、英語の四技能のうち読む力と書く力を伸ばせていないのが一因と考えられた。そのため授業時間以外に英文を読む習慣を身に着けさせる方法として、SSS方式(Start with Simple Stories)の英語多読を導入することとした。まず補正予算で Leveled Readers や Graded Readers を中心に図書館に約200冊の英書を購入し、その後、合計1,000冊まで買い足した。そして英語科教員の当初申告時の面接で、英語多読に興味を示した数名の教員で、小規模なチームを作り、勉強会を開き、東京都高等学校英語教育研究会(高英研)の英語多読研究会に教員を派遣し、長期休業期間中には、同部会から講師を招いて校内研修を実施した。

3 平成26年度の取り組みと今後の課題

平成26年度からは、外国語コースの授業の一部に英語多読を導入した。東京都教育ビジョン(第3次)の主要施策にも掲げられている高校生書評合戦首都大会を外部環境の機会ととらえ、これまで外国語コースで行われてきたコンテストに、英語による英書ビブリオバトル(書評合戦)コンテストも加えることとして、図書館の多読用英語図書をまず外国語コースの生徒が活用し、英書ビブリオバトルで校内にアピールすることで、普通科の生徒の英語多読に関する啓発を行うのが狙いである。同時に校外に対しては、高英研に働きかけ、英語多読に熱心な他の都立高校とともに英語による英書ビブリオバトルの決勝大会を本校で開催することとした。これによって英語多読を本校の英語教育の特色として打ち出していくのが狙いである。これらの取り組みが TOEICBridge のスコア等にどのように反映されたかを検証するのが今後の課題である。